

No. 2 9 6

全 仏

3 / 59



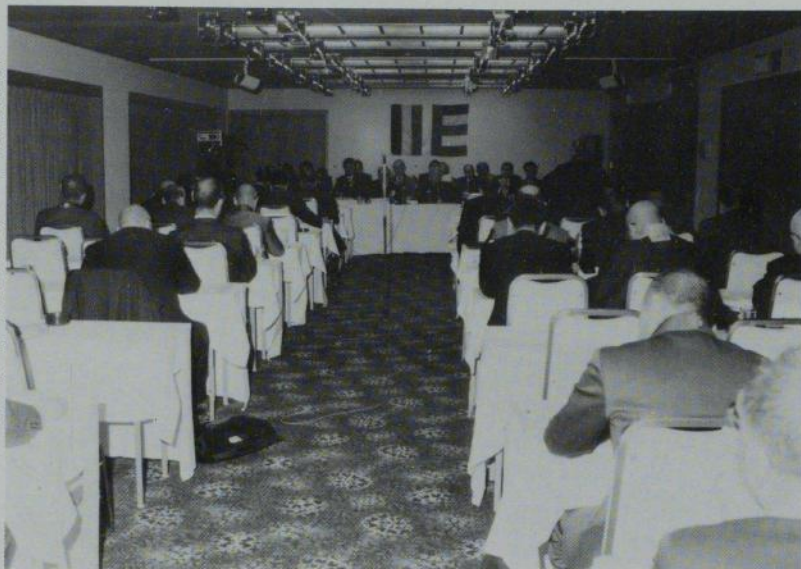
ルンビニー復興を支援しよう

釈尊生誕の地ルンビニー園

ルンビニー園のmaya室内
にある釈尊誕生の像
(松本栄一氏撮影)

全仏理事会・評議員会 開く

新会長に藤井浄土門主



議案審議をする全仏の理事・評議員会

全日本仏教会では、任期満了に伴う役員改選などのため、去る二月九日午前11時から、東京グランドホテルにおいて、定例の評議員会・理事会を開催し、会長・副会長の推戴、事業計画、予算案などの議案を慎重に審議した。会長には浄土門主の藤井實應猷下が推戴され、理事会・評議員会の両会共通議案・報告事項については、合同で進行した。

評議員会は議長に岩崎宗秀師、議事録署名委員に、持田貫宣、茂木隆応の両師を選出して上程された議案の審議に入った。

議案第一号「任期満了に伴う理事及び監事選出の件」
前例にならない選考委員を選出し、理事

理事長に阿部慶昭師

理事会は、本多賢純理事長を議長に、また議事録署名委員には、高藤法雄、宇佐美諦練の両師を選んで審議に入った。

議案第一号「任期満了に伴う理事長及び常務理事選出の件」
本願寺派の阿部慶昭師を理事長に選出、また別掲通りに常務理事を選んで、阿部議長のもと、以下の議案の審議に入る。

議案第二号「事務総局人事の承認を求めめる件」
事務局案の説明を受け、原案通り議決する。

議案第三号「任期満了に伴う会長及び副会長推戴の件」
別掲会長、副会長を満場一致で推戴す

などを選出する提案が出され、選考委員六人を選出、選考委員会は別室にて協議を重ね、理事四十七人、監事三人を選出、評議員会に報告、評議員会は、報告を受け、審議の上、別掲の通り、理事、監事を選出した。

議案第二号「任期満了に伴う会長及び副会長推戴の件」
別掲会長、副会長を満場一致で推戴することを議決。

議案第三号「昭和五十九年度事業計画案について意見を求める件」
原案賛成の意見が表明された。

議案第四号「昭和五十九年度歳入歳出予算案について意見を求める件」
原案賛成の意見が表明された。

ることを議決。

議案第四号「昭和五十九年度事業計画案の承認を求めめる件」
事務局案の説明を受け、質疑応答の後、原案通り議決する。

議案第五号「昭和五十九年度歳入歳出予算案の承認を求めめる件」
事務局案の説明を受け、質疑応答の後、原案通り議決する。

議案第六号「加盟団体負担金の減免申請受理について承認を求めめる件」
継続審議となった。

なお、評議員会・理事会に共通する報告事項として、①事務局各部報告、②ルンビニー復興日本仏教徒委員会実行委員会報告が、担当局、部長から行われ、会議は終了した。

59年度事業計画ならびに予算案を承認

昭和五十九年度事業計画ならびに歳入歳出予算は、評議員会・理事会において事務局案が承認された。

事業計画 別掲の通りほぼ前年を踏襲しているが、特に同和の推進、税務等の時局対策に積極的に取り組む。また、本年度は事務局の機構検討を全面的に推し進める。

さらに、第十四回WFB大会へ代表を派遣する等国際交流を進める一方、全仏大会や仏教文化会議の開催、県仏の組織強化などに力を注ぐ。

歳入歳出予算 前年度より、約四百十万円増の八千四百三十七万八千円の予算歳出をみると、事務局機構検討委員会の新設等に伴って諸会議費や、重要案件である同和推進費などが増額となっている一方、国際運動費や機関誌発行費などは減額されている。

各局の事業計画内容

〈総務局〉

基本目標 本会寄付行為第五条の各種事業遂行に必要な措置を講ずる。

実施項目①諸官庁および関係諸団体との連絡提携

- ②時局対策
- ③その他必要な事項

〈組織局〉

基本目標 本会寄付行為第五条の事業目

的たる仏教運動の実践および育成を主にし、時代に即応した全一仏教運動を強く推進するとともに構成団体の一層の強化と団結を期するため下記の事業を実施する。

実施項目①加盟団体との連絡提携の強化

- ②第三十一回全日本仏教徒会議（各種代表者会議）の開催
- ③未加盟団体の加盟促進
- ④ブロック別各県代表者会議の開催
- ⑤同和の推進をはかる
- ⑥その他必要な事項

〈国際文化局〉

基本目標 本会寄付行為第五条の事業目的たる世界各国のWFBセンターおよび仏教諸団体との連絡、文化交流を中核として、仏教による国際親善と世界平和の実現を期する。また、仏教運動の総合的企画促進、各種仏教運動の実践育成ならびに広報活動を活発に行うことにより、全一仏教運動の促進をはかる。

―国際部―

実施項目①WFB関係

(イ)本部で決議された事項の実施、特にルンビニー復興計画への協力

(ロ)WFB第十四回大会・WFB執行委員会・ユネスコ会議等への出席および代表派遣

②国際仏教交流関係

- (イ)臨時に行われる国際会議または巡拝団等への代表派遣
- (ロ)訪日仏教徒の歓迎接待
- (ハ)在日各国公館との連絡接

渉

(ニ)各国の天災、戦災等に対する救援活動

④その他必要な事項

―文化部―

実施項目①機関誌「全仏」の発行と普及

- ②第十七回日本仏教文化会議の企画および開催
- ③各種教化資料の作成と普及
- ④広報宣伝に関する事項
- ⑤仏教文化財保護の推進
- ⑥その他必要な事項

◎ルンビニー復興援助のための勧募を強力に推進する。

〔ルンビニー復興日本仏教徒委員会〕

にぎやかに新年懇親会開く

◇…森文部大臣らから祝辞 百人を超える参会者

理事会・評議員会終了後、同じ東京グランドホテルを会場に、新年懇親会が開催された。

午後五時からの懇親会では、新しく会長に推戴された藤井實徳下、新理事長に就任した阿部慶昭師等から挨拶が行われ、また来賓として出席した森喜朗文部大臣、砂田重臣自民党全国組織委員長、シュレンタ・ネパール大使等からは、祝辞が寄せられた。

副会長に推戴された木辺宣慈下での発声で乾杯が行われ、祝電の披露などもあって、百人を超える参加者のなごやかな談笑がもたらされた。

〔写真は新年懇親会で祝辞を述べる

森文部大臣〕



全仏新役員の顔ぶれ

副会長は梅田師ら8人

会長 藤井 實應 (浄土門主)
副会長 梅田 信隆 (大本山総持寺貫首)
小松原賢誉 (真言宗豊山派管長)
守山 良順 (聖観音宗管長)
村瀬 玄妙 (黄檗宗管長)
木辺 宣慈 (真宗木辺派管長)
林 亮海 (東京都仏会長)

- 理事長 小西 日静 (兵庫県仏会長)
常務理事 阿部 慶昭 (浄土真宗本願寺派)
理事 中村 元 (東大名誉教授)
監事 〃 〃 (〇印)
評議員 敬称略
〇永井 孝道 (曹洞宗)
〇細川 祐葆 同
〇米馬 規雄 同
鎌原 佑元 同
山崎 正道 同
大田 薫一 同
桑原 眉尊 同
小田原利仁 同
〇豊原 大潤 (浄土真宗本願寺派)
〇有馬 清雄 同
〇阿部 慶昭 同
〇浅野 秀慶 同
藤岡 義昭 同
黒山 秀行 同
野田 英隆 同
武田 智徳 同
〇五辻 実誠 (真宗大谷派)
〇高藤 法雄 同
〇木越 樹 同
細川 信元 同
本間 義博 同
藤原 俊 同
出雲路善嗣 同
高浜 純雄 同
〇武田 斎彦 (浄土宗)
〇鱒淵 正浩 同
小口 輝雄 同
- 大田 秀三 同
川井 匡俊 同
伊東 康雄 同
酒井 亮貫 同
野呂 幸進 同
〇遠藤 日護 (日蓮宗)
〇加藤 海晃 同
持田 貫宣 同
永倉 嘉文 同
小崎 竜雄 同
新井 智清 同
〇阿部野龍正 (高野山真言宗)
近藤 説蔽 同
▽橋爪 良恒 同
寿山 良知 同
山田 一真 同
▽野口 浩堂 (臨濟宗妙心寺派)
▽橋本 玄進 同
中野 浩道 同
中島 義観 同
梅原 諦愚 同
〇清田 寂円 (天台宗)
田中 耕順 同
即真 尊籠 同
長沢 徳純 同
〇小沢 照禧 (真言宗智山派)
別所 弘因 同
茂木 隆応 同
花木 義光 同
〇中川 祐俊 (真言宗豊山派)
岩脇 宏信 同
吉田 俊誉 同
川田 聖定 同
〇安藤 正晃 (孝道教団)
- 山口 正戒 同
林 節子 同
〇森田 禅朗 (和宗)
榎場 弘映 同
健代 和忠 同
〇塩入 亮達 (聖観音宗)
清水 映順 同
五十嵐意承 同
〇長谷川霊信 (念法真教)
大倉 清治 同
麻生 文雄 (真言宗醍醐派)
仲田 順和 同
〇石井 玄妙 (真言宗御室派)
〇松尾 全弘 (西山浄土宗)
〇鬼頭 弘彦 同
〇高島 広勝 (真言高田派)
服部 泰正 同

寺院用具
浅草通り五鳳会加盟店
株式会社 浜田商店
東京都台東区寿2-10-9 (地下鉄田原町駅前)
電話 代表 (841) 4965

- 直井 宏之(真宗興正派)
- 奥田 行朗(黄檗宗)
- 松浦 勝道(臨濟宗南禪寺派)
- 足立 有教(真言宗国分寺派)
- 東条 仁哲(真言宗大鳴派)
- 竜勝 良融(天台真盛宗)
- 辻 円乘(時宗)
- 渡辺 宗岑(臨濟宗建長寺派)
- 松井 孝純(法華宗本門流)
- 片山 宥雄(真言宗大覚寺派)
- 井上 俊久(浄土宗西山禪林寺派)
- 田中 瑞欄(融通念仏宗)
- 岡平 篤道(臨濟宗東福寺派)
- 梨本 哲雄(真宗仏光寺派)
- 齊藤 日敬(本門仏立宗)
- 山本 勝隆(浄土宗西山深草派)
- 阿部 本宜(真言宗善通寺派)
- 吉永 正晴(顕本法華宗)
- 森 弘之(新義真言宗)
- 横井 邦一(臨濟宗円覚寺派)
- 加藤 明真(天台寺門宗)
- 鈴木 昭吾(法華宗陣門流)
- 岩崎 昭吾(真宗木辺派)
- 法華宗真門流)
- 岩橋 政寛(東寺真言宗)
- 壬生 滋雄(臨濟宗永源寺派)
- 浜村 蓮教(真言宗山階派)
- 鈴木 浄雲(臨濟宗相国寺派)
- 田原 周仁(臨濟宗天竜寺派)
- 本門法華宗)
- 真言宗東寺派)
- 真言律宗)
- 臨濟宗建仁寺派)
- 筒井 寛秀(華嚴宗)
- 安井 玄純(真言宗泉涌寺派)
- 多川 乗覚(法相宗)
- 田中 真瑞(信貴山真言宗)
- 律宗)
- 高田 良信(聖徳宗)
- 小池 弘三(真言宗須磨寺派)
- 国定 浄雲(真言三寶宗)
- 平田 忠義(妙見宗)
- 池田 登輝(真言宗中山寺派)
- 竹中 徳成(北海道仏教会連盟)
- 山本 智雲 同
- 上田 頼石(青森県仏教会)
- 高橋 雄仙(岩手県仏教会連盟)
- 板垣 隆寛(山形県仏教会)
- 小原 泰寿(茨城県仏教会)
- 塚田 賢照(栃木県仏教会)
- 高木 歙了 同
- 竹市 文成(群馬県仏教連合会)
- 江連 俊則(埼玉県仏教会)
- 河野 亮永 同
- 土持 良栄(千葉県仏教会)
- 岩崎 宗秀(東京都仏教連合会)
- ▽白川 謙敬 同
- 野口 宥興 同
- 貝山 宣泰(神奈川県仏教会)
- 横山 敏明 同
- 倉茂 良海(新潟県仏教会)
- 清雲 栄玄(山梨県仏教会)
- 黒柳 祖道(長野県仏教会)
- 橘 感月(岐阜県仏教会)
- 若山 運法(静岡県仏教会)
- 村松 了章 同
- 宇佐美諦練(愛知県仏教会)
- 瀬辺 淳信 同
- 花山 顕勝(三重県仏教会)
- 木辺 宣慈(滋賀県仏教会)
- 鶴飼 泉道(京都府仏教会)
- 鈴木 竜珠(大阪府仏教会)
- 小川 勝明 同
- 小西 日静(兵庫県仏教会)
- 前田 孝道(和歌山県仏教会)
- 東 雄鳳(鳥取県仏教会)
- 島根県仏教会)
- 本山 完海(岡山県仏教会)
- 荒木 戒空(徳島県仏教会)
- 石井 有龍(香川県仏教会)
- 小野田章神(愛媛県仏教会)
- 早瀬 源慶(高知県仏教会)
- 福岡県仏教会)
- 山本 杉(全日本仏教婦人連盟)
- 林 恵美子 同
- 中山 富士(日本仏教鑽仰会)
- 白川 元昭(全日本仏教青年会)
- 巖谷 勝雄(国際仏教興隆協会)
- 関口 宏(国柱会)
- 深堀 泰一(朝日生命仏教研究会)
- 壬生 照順(近代仏教研究会)
- 友松 諦道(真理舎)
- 石山 善邦(日本山妙法寺)
- 秋山 秀濟(日本仏教保育協会)
- 梵人会)
- 宮沢 恭友(善光寺)
- 竹村吉右エ門(仏教振興財団)
- 成田 孝英(東京ブテイスククラブ)
- 沼田 恵範(仏教伝道協会)
- 山崎 良順(世界平和同願会)

夜体が固体に！甘茶が形になりました

甘茶あめ

行事の主旨を踏まえた新しい記念品です

- ・花まつりのおみやげとして…
- ・普段の茶菓として…

※ケース単位でご注文をお願いします。

●施本はなまつり

(右花御堂写真と同表紙です。100部以上1部85円)



金厲缶入
-7粒入- 155円
(1ケース120缶入)



花御堂袋入
-7粒入- 98円
(1ケース100袋入)



法輪袋入
-7粒入- 68円
(1ケース100袋入)

仏教教化用品の **すずき出版** 〒113東京都文京区本駒込6-4-21 ☎03(945)6611



救援を待つアジアの子どもたち

全日本仏教青年会は、昨年六月に大阪北御堂にて行なわれた臨時理事会にて、新理事長に大阪府仏教青年会の白川元昭師を選任した。組織としては、副理事長に田中光成（国際交流担当・東京仏青）鷲津憲道（渉外担当・埼玉仏青）佐藤功岳（国際救援担当・神奈川県）藪木恵照（国内救援担当・大阪府仏青）元木成彦（大会担当・高

野山真言宗青年会）の各師、事務局長に立石泰教、事務局次長に田中信道、山田智之、会計に白石忠雄の各師（いずれも大阪府仏青）、そして監査に永倉嘉文・正本乗光の各師が選任されスタートした。
 本会の事業年度は一期二年であるため、六十年三月末日までこの組織で運営される。方針としては「広げよう法

の輪を」のスローガンを掲げ、カンボジア難民救援問題以来、積極的に取り組んで来た国際救援運動を鋭意継続し、更には国際交流の充実を図る。そして、国内に目を向け障害者問題・災害に対する援助等を行ってゆく国内救援が新たに設置された。

事業計画は次の通りである。
 (1)未加盟仏教青年会の加盟促進(2)仏教青年会結成の呼びかけ(3)加盟仏教青年会間の情報交換と交流の推進(4)各団体との交流(5)全日本仏教会の各種行事への参加協力(6)全日本仏教青年大会の開催(7)機関紙(全日仏青)の発行(8)世界仏教青年連盟(WFBY)の目的達成

国際救援、さらに努力

全日本仏教青年会

佐藤 功岳

の為の諸行事への協力(9)国内外の災害・難民等の救援運動を中心とした社会奉仕活動の実施(10)その他、の十項目であり、このため総計二百一十萬円の予算を計上している。

本年度は各セクションで目的達成のための具体的事業計画・スケジュール事業の実施までを行ってゆく所謂「委員会制」が採用され、本部事務局は大阪に、国際交流が東京に、そして国際救援は神奈川にそれぞれ事務局を置き運動展開の円滑化を図った。

まず国際交流であるが、一九七八年WFBJP日本大会の折、WFBYの大会

も併せて開催された。これに伴い全日本仏教青年会は正式に加盟団体となり、現在は元全日青理事長永倉嘉文師がWFBYの副会長として活躍している。

本会は、WFBY本部の運動方針に従って活動を進めてゆくことは当然のことであるがそれにとどまることなくマレーシア・韓国・ネパール等の仏青との交流を行なってきたが、これを更に充実したものとす方向で展開してゆく。

又、新設された国内救援は、昨年の秋田沖地震への対応が充分でなかったことに端を発し一つの委員会として誕生した。本年度は既に山陰地方豪雨見舞金十萬円、又、「愛は地球を救う」

(日本TV系よみうりTV)に三十萬円の寄付を行なっている。今後、募金をプールしておき、緊急時に即応できる態勢を整えるべく運動してゆく。

ここ数年、積極的に運動を展開している国際救援は、本会の名前を社会的に認知させている。

即ちユニセフは、一九八二年度の年次報告書の中で全日本仏教青年会からの協力を明記した。更に一九八三年には、ユニセフスタッフツアーに全国五団体の一つとして参加の要請を受けた。そして、アジアの国々でも我々仏教徒の若者たちが、救援運動に立ち上った

ことに関し熱い望みをかけていることが、現地に赴いた会員からの報告で伝えられている。

日本は、戦後の荒廃から諸外国の驚嘆の中に急速度で復興し、今や世界経済の一翼を担うに至っている。しかし、こうした復興も諸外国の援助の上に成し得たことであり、このことを忘れてはならない。今こそ、日本はそのとき受けた恩を報ずべき時に来ている。

本年度も本会は、仏子たる自覚の下、国際救援により以上の努力を傾注してゆく考えである。昨年度は、関係各位の深いご理解により五萬ドル強のご支援をいただき、ラオスの人々の生命をつなぐために百五十ヶ所以上の井戸を提供することができた。本年度は「アジアの子供たちが待っている——水を、健康を、教育を」というキャンペーンを展開し、目標総額十萬ドル(約二千五百萬円)を計上している。これは昨年度の運動を更に発展させ、突発的な緊急事態にも対応できる用意を怠らなためである。今、アジアの仏教圏では一日に約四十程度度の支給された食料に飢えをしのぎ、不衛生な水で生命をつなぎ、薄暗い裸電球の下で、不確定な明日を待っている人が多数いる。しかも、こうした中で一日に四万人の子供たちは命を落している。
 本年度、全日本仏教青年会は前述の如き方針にて仏青運動を展開する所存である。諸大徳・関係各位のご厚情を鶴首いたしております。

全仏囲碁大会

各宗から五十人が参加開く 実力日本一に安川喬師

第一回全日本仏教会囲碁大会は全国各地から各宗の僧侶五十名が参加して日本棋院の全面的な後援を得て、二月七日、東京市ヶ谷の日本棋院に於いて開催された。

午前十時開会式。藤本照普実行委員長会。先ず、主催者を代表して横山敏明実行委員が開会の挨拶。次いで、日本棋院



熱戦をくりひろげる参加者

を代表して、増渕辰子六段が祝辞を述べた。

競技は、段級差を考慮して次の五つのグループに分れて行われた。

- Aグループ——五段以上
 - Bグループ——三、四段
 - Cグループ——初、二段
 - Dグループ——五級以上
 - Eグループ——五級以下
- 激戦が展開された結果、次の方々が優勝、準優勝した。

Aクラス(五段以上)
優勝 安川喬(富山・高野山真言宗)



あいさつされる坂田日本棋院理事長

準優勝 吉河寛明(東京・浄土宗)
Bクラス(三、四段)

優勝 藤本照普(千葉・真言宗智山派)
準優勝 及川真介(東京・日蓮宗)
Cクラス(初、二段)

優勝 寺井明道(東京・日蓮宗)
準優勝 朽木明晚(京都・真宗大谷派)
Dクラス(五級以上)

優勝 雲居隆栄(神奈川・浄土真宗本願寺派)

準優勝 齊藤幸紹(神奈川・浄土真宗本願寺派)
Eクラス(五級以下)

優勝 安井洋一(千葉・真言宗智山派)
準優勝 石川弁能(東京・日蓮宗)

競技はトーナメント方式により行われたが、手空きの人々のため増渕先生をはじめ特別参加の鄒海石五段、宮下鈴枝初段が指導碁を行った。

戦いを終って午後五時より、表彰式と懇親会が、野生司主事が司会して、和気あいあいのうちにおこなわれた。まず全日本仏教会を代表して、龍山哲成事務次長が挨拶、つぎに日本棋院を代表して坂田栄男理事長が祝辞を述べた。概略次の通り。

「仏教界と囲碁との関係が極めて深いことは、京都寂光寺の本因坊算砂の名前と共に広く知られている処である。私も毎年、東京本妙寺内の本因坊家の墓処に参っている。此度、全日本仏教会がこうした催しを開催されたことは大変意義深いことで、日本棋院としても全面的な応援をしたい。いよいよこの集いが盛んになることを祈っている」

次いで来馬規雄実行委員長より成績の発表があり、各クラスの優勝者、準優勝者に全仏役員寄贈の純銀製のカップ並に楯が、龍山次長より授与された。金子日威会長寄贈の大カップは、坂田理事長より安川師に授与された。

懇親会は、白川良純実行委員が乾杯の発声を行い、会食をした。この間、自己紹介を行った。富山・京都・大阪など遠隔の地からの参加者には期せずして大きい拍手が湧いた。それから坂田先生の提唱で、両先生も参加して大盤を使って参加者全員により連碁を行った。更にAクラスの決勝の譜を来馬・横山の両委員が並べて増渕先生が講評して興を添えた。

最後に、及川真介実行委員が閉会の挨拶をして来年の再会を約して閉会した。Aクラスで優勝した安川喬師は、三月六日坂田栄男日本棋院理事長と記念対局を行い、その棋譜は「棋道」五月号に発表されることになっている。

最後に純銀製カップを御寄贈くださった方々に甚深い謝意を表しておきたい。御寄贈くださった方々は次の各位である

○Aクラス——会長杯
金子日威 全日本仏教会々々長

○Bクラス——理事長杯
本多賢純 全日本仏教会理事長

○Cクラス——事務総長杯
矢萩信顕 全日本仏教会事務総長

○Dクラス——国際文化局長杯
川井匡俊 全日本仏教会国際文化局長

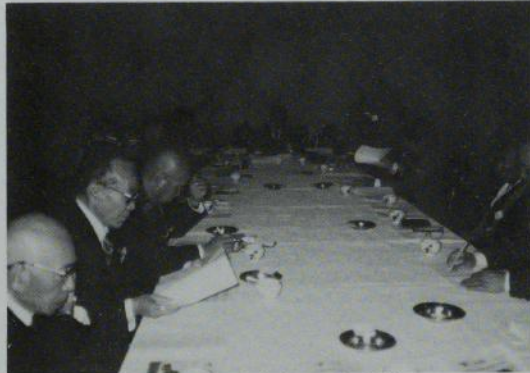
○Eクラス——文化部長杯
川島宏之 全日本仏教会文化部長

盛大な歓迎受ける

全仏インドネシア巡拝団

第十四回世界仏教徒会議(WFB)インドネシア大会は、昨年十二月、ジャカルタを主会場として開催されることになっていた。そこで全日仏では、この大会に参加し、併せてインドネシアの各地を参拝、観光する旅行の企画をたて参加者を募集し、実施するばかりになっていた。処が、国内の諸事情により、大会開催は中止となったので、参加者の同意をえて、急遽「インドネシア仏教会との親善交流及びバリ島・ポロブドール仏跡巡拝の旅」と銘うって実施することになった。昭和五十八年十二月三日、出発を前にして成田空港内のVIPルームにて一行十六名が集合し、それに全日仏より那須組織局長、田代国際部長、小峰主事らが臨席して結団式が行われた。那須局長より団員全員に委嘱状が渡され、団長には全日仏を代表して参加する矢萩信顕事務総長が、副団長には板垣隆寛山形県仏教会々長が任命された。

空路定刻通り無事ジャカルタに到着した一行は十二月四日午前十時、ジャカルタの中国人街にあるインドネシア仏教会本部を親善訪問した。五十名ほどの老若



開かれた四国ブロック会議

男女が出迎えてくれた。一行が本部の入口を入ると大勢の着飾った子供たちが歓迎のダンスと音楽で迎えて、一行の一人一人にダンスに用いたジャワ更紗の舞扇を贈呈した。更に、会場に上ると次から次へとダンスや音楽で歓迎してくれた。予期せぬことに一行は、驚きかつ喜んだ。

アギインドネシア仏教会々長は、歓迎

の辞の中で、大会中止の経緯やインドネシアという回教国に於ける仏教界の現状を説明した後、日本の仏教界との親善交流を深めたい希望を強調した。

これに対し矢萩団長は、心の籠った歓迎に感謝の意を表し、全日仏としても、出来るかぎりの協力を行いたい旨の挨拶を行った。次いで板垣副団長より全日仏からの記念品を贈呈し、更にダンスや音楽で歓迎してくれた子供たちに金一封を贈った。全員に見送られた一行は、国立博物館、独立記念塔、ミニ・インドネシア公園、パティック工場などを観光した。

十二月五日、一行は歴史の街、ジョクジャカルタを訪問し、午後からこの旅行の目的の一つであるポロブドールの仏教遺跡に向った。バスで一時間ほど行くと

田園風景の中に突然、遺跡の先端が見えると、一行は期せずして歓声をあげた。ポロブドール遺跡は、八世紀に約百年をかけて建立されたといわれるが、長い間、荒れるままに放置されていたのを、ユネスコが協力して、十年間の歳月をかけて、修復が完成した世界に誇る仏教遺跡である。一行は二時間ほど参観して、往時を偲び、感銘にひたった。

十二月六日、一行は最後の訪問地であるバリ島へ向った。バリ島は世界的に有名な観光地ということもあって、世界の各地からの観光客で賑わっていた。

その後、十二月九日午前七時、無事に成田空港に帰着した。早朝にもかかわらず田代部長、小峰主事が出迎えた。

四国ブロック会議 高知で四県代表集め

① 同和問題について
事務局より、現在までの同和委員会、並びに各宗派に於ける同和問題への取組状況が報告され、あわせて、今後の県仏に於ける取組の方向についての要望もなされた。それを受け、各県仏より現状等が報告され、今後一層同和推進に努力することが確認された。

② 税務問題について
先般の「税制調査会」に於ける宗教法

人に関する答申に対し、今年は見送られたものの、今後も決して等閑視できない問題であり、県仏に於いても一層の協力が事務局より要望された。

③ルンビニー復興協力金についてのお願

④全仏理事について
現在四国四県に於いて全仏理事一名の枠があるが、いまだ、選出されておらず、再度、事務局より、要望がなされた。

⑤県仏活動報告について

各県より活動が報告されたが、徳島県仏教会からは、昭和六十年十月に全仏大会を開催するため、準備に入っていると報告が行われた。

なお、昭和五十九年度の四国ブロック会議は、愛媛県で開かれることを決め、会議は終了した。

第六回同和委員会

高野山でひらく

第六回同和委員会は、昨年十二月十三日午後二時から、高野山真言宗の宗務所を会場に、特に「高野山真言宗内局者との懇談会」というタイトルで開催された。この会議は、同和問題に対して、これ以上仏教界が外部からの指摘によって対応するのではなく、もっと積極的に自らの手で推進してゆくべきだとする、同和委員会の意見を受けて開かれたものである。

まず高野山真言宗の内局から、第二回糾弾会以後の取り組みの経過、および今

後の方向について報告があり、それに對して各委員から活発な質問が寄せられ、各宗の取り組み方が参考として紹介された。最後に、もっと自発的に同和推進に努力してほしいという要望が委員会から内局に対して出され、会議は終了した。

機構検討委員会

委員長に鎌原師

第二回事務局機構検討委員会は一月三十一日午後一時から、京都の真宗大谷派宗務所会議室で開催された。最初に豊田総務局長から、昨年十一月十七日開催された理事会で、事務局機構検討委員会規程が承認されたこと、ならびに同和委員会から事務局に同和推進を専門に担当する部局を設置するよう要望があったこと等が報告された。

次に正副委員長の選出に移り、委員長に鎌原佑元師（曹洞宗）、副委員長に小峰令丸師（全仏旧職員）が選ばれた。

鎌原議長のもと、自由討議で話し合いが進められ、各委員から次のような意見が出された。①宗派、県仏、各種団体という全仏の構成のあり方を根本的に見直すべきではないか。②事務局と理事会との関係を見直すべきだ。③時局に對

花まつりポスター

* 4月8日はお釈迦さまのお誕生日

花まつり



|| 広く統一してご利用下さい ||

花まつりの行事は年々盛大に行なわれていますが、さらに全国的に浸透せしめるため、全日本仏教会では写真のような統一したポスターを作成、広くご利用頂けるよう頒布しております。明るい春の野に静かに立って、天と地をさすお釈迦さまの姿は、見る人の心に安らぎを与えると思います。下記の要領にて頒布いたしますので各県仏、都市仏、各寺院、幼稚園、保育園などで広くご利用下さい。

◎ サイズ 七四〇×五二〇

◎ 定価 一枚 百円

送料実費

◎ 申込先 東京都港区芝公園四―七

― 四 全日本仏教会文化
部花まつり係

※送付に時間がかかることもありま
すので、お早めにお申込み下さい。毎
年ギリギリの申込みで四月八日に間に
合わないことがありますので……。

した事業内容の見直しを行うべきだ。④ 宗派出向職員の人件費は、その宗派が負担したかどうか。⑤ 理事の部局担当制度

を導入したらどうか。なお、今回の委員会は三月二十八日に東京で開催することになった。

第14回WFB大会

今夏8月2日～11日の10日間

スリランカでひらく

第十四回WFB大会（世界仏教徒会議）は、本年八月二日から十一日まで、スリランカの首都コロンボで開催されること

が決定した。

この大会は、昨年十二月にインドネシアのジャカルタで開催される予定だったが、現地の事情で急に中止となった。なおスリランカ大会のプログラムには、キャデヤのお祭りとして有名なベラヘラ祭りの見学も含まれている。

WFB大会を報告

国際専門委

国際専門委員会は二月一日午前十時から、明照会館会議室で開かれた。

最初に、昨年十二月に開催予定だった第十四回WFB大会が、本年八月上旬、スリランカのコロンボとキャンデーで行われることになったという報告が国際部長からなされた。またこの大会に派遣する全仏の代表団については、前回の委員会承認された規程に従うことになった。

次に来日を希望する外国人僧侶、留学生の受け入れ内規が検討され、希望者に

対しては、日本での生活の実際をまず手紙で伝えるべきであろうということになった。次に事務局から、ルンビニー復興計画の現状報告が行われ、閉会となった。

ルンビニー総務部会

各委員から活発な意見

第八回ルンビニー総務部会は、一月二十日午後二時から、明照会館会議室で行われた。

この日は、「ネパール王国政府ルンビニー開発委員会と本会との交換文書に関する諸問題の検討」を議題に、各委員から活発な意見が出され、交換文書の取りか

わしに先立って、次の事項を確認することになった。① 聖なる園の発掘は、日本の調査団の指導のもとに行う。② 堂等の建立は、日本国内関連業者に受注せしめる。③ 堂等の維持管理はルンビニー開発委員会が行う。④ 記念碑の建設は、堂等の周辺に建てる。⑤ 献金は工事の進展状況にともない「出来高払い」で行い、日本大使館の仲介のもとに行う。以上の五点をネパール王国政府ルンビニー開発委員会は了承する。

文化専門委員会開く
第二回文化専門委員会は、二月一日十二時から明照会館会議室で開かれた。川井国際文化局長挨拶の後、まず七日に予定されていた「第一回全日本仏教開基大会」について事務局から説明が行われ、次に昭和五十九年度の「日本仏教文化会議」、さらに、最近加盟団体から要望が寄せられている「全一仏教聖典」等の問題について、活発な話し合いが行なわれた。

英語の「スピーチコンテスト」

小河原弘士氏に全仏杯

仏教英語研究会主催による第五回「英語による仏教研究発表会」が、去る二月十一日、東京六本木の国際文化会館で開催された。

この弁論大会は、日本文化、仏教とのかわりを英語を通して考え、発表することを主旨として、当日は十人の出演者が熱弁をふるった。

審査の結果「JAPANESE INGENUITY」というタイトルで発表を行った、小河原弘士氏（二十八歳）が全日本仏教会杯を受賞した。小河原氏は、専修大学等で講師を勤めており、コンテスト終了後行われた懇親会で、全仏から来賓として出席した田代国際部長から、カップを受けた。

〔写真は全仏杯を受ける小河原氏〕



文化財保護の要望書提出

全日本仏教会では、去る一月、自民党文教部会・文教制度調査会・文教局あてに理事長名で「国宝、重要文化財の修理・管理・防災事業の充実について」の要望書を提出した。

この要望書は、国宝、重要文化財が、我が国の歴史、文化の正しい理解のために欠くことのできない重要な文化遺産であり、永く子孫に伝えてゆかなくてはならないことを述べ、左記の四点を要望している。

一、国宝、重要文化財保護対策の充実

一、国宝、重要文化財の修理・防災の充実

二、伝統的建造物群の整備充実

三、文化財保存施設の整備
四、伝統技術の保全・振興

哀 悼

宮本 正尊師（仏教文化会議前議長）
昨年十二月三十日、九十歳で遷化。東大名誉教授、文学博士、印仏学会前理事長。長年にわたって日本仏教文化会議の議長として会議の発展に尽力された。

藤前 東時師（全仏副会長）

一月二十七日、八十四歳で遷化。本願寺派の宗会議員、総務を歴任、大阪府仏教会々長在任中の昭和五十七年二月から、全仏副会長を務めていた。

事務局録事

◇一月◇

- 十一日 埼玉県仏新年会出席
- 十七日 宮本正尊師本葬参列
- 十八日 局内会議
- 二十日 税務委員会
ルンビニー総務部会
- 二十四日 四国ブロック会議
- 二十六日 自民党大会出席
- 二十七日 全日仏婦修正会出席
- 三十一日 事務局局機構検討委員会

◇二月◇

- 一日 国際専門委員会
文化専門委員会
- 四日 局内会議
- 六日 常務理事会
- 七日 全日本仏教会開基大会
- 九日 評議員会・理事会
新年懇親会
- 十四日 法律相談室
- 十七日 長岡市仏税務講習会出席
- 二十三日 同和委員会
- 二十七日 組織専門委員会
- 二十八日 法律相談室
- 二十九日 局内会議

恒河 季刊

現代を生きる仏教カラーグラフィクス

大遠忌に合わせ総力取材!!

特集 弘法大師空海

絵伝にみる弘法大師空海の生涯 村岡空
対論 いま日本人にとって、なぜ空海か
梅原猛vs河合隼雄



- フォト・ギャラリー—生命が燃える—空海の宇宙—写真 池 利文
- 秘密荘厳のこころ—空海の宇宙によせて—松長有慶
- 映画「空海」を創造する男たち 早坂暁・佐藤純爾・北大路欣也
- 仏典セミナー 『般若心経 秘鍵』を読む 金岡秀友

仏教の叡知を現代にとりもどす《推薦》全日本仏教会

創刊第2号
好評発売中

●A4ワイド判166頁(カラー66頁)
定価2,200円(〒300円)

特大図録(690×510ミリ)「板彫弘法大師像」

対談日本仏教のなかの弘法大師空海
那須政隆vs山折哲雄

●連載「仏陀」 瀬戸内寂聴 挿画・岩崎巴人

●Photo & Essay 中尊寺を撮る 稲越功一

長嶺ヤス子「曼陀羅」の舞を語る

《創刊号の主な内容》●A4ワイド判 定価2,200円

特集 ブッダとキリスト

対談私のなかのブッダとキリスト

中村元 vs 北森嘉蔵 / 司会 奈良康明

対論人間としてみたブッダとキリスト

梅原猛 vs 山本七平

学研 販売総局 〒145 東京都大田区上池台4-40-5
☎(03)720-1111(代)

弘法大師のご生涯を描く

全仏推薦映画「空海」

御入定千百五十年を記念

弘法大師の生涯を描いた映画「空海」が、いよいよこの四月に封切られる。

今年に弘法大師御入定千百五十年に当

四月十四日東映系で公開



たり、真言宗の各派では、それぞれ御遠忌の大法要をにぎにぎしく勤める。全真言宗青年連盟製作の映画「空海」は、その記念事業の一つとして、企画から完成まで五年有余の歳月と、十数億円の巨費を投じ、中国での大ロケーションを始め、

東映が持てる力の全てを結集した一大スケタルである。

監督は「未完の対決」の佐藤純弥、主演に北大路欣也、助演者には、森繁久弥、加藤剛、丹波哲郎、小川真由美、西郷輝彦といった豪華キャストを配し、上映時間三時間に及び、本年度最大の話題作となろう。

物語は、空海が十五歳で奈良の都に登るところから始まり、大学を捨てて仏教に身を挺し、難行苦行の末、遣唐使船に乗って留学僧として都長安に赴き、真言密教第八祖として帰朝、東寺・高野山を開山、民衆の中にあつて済度の旅と、諸社会事業を完遂、そして六十二歳で入定に至るまでを、ドラマチックに追っていく。特に中国各地の美しい風景をバックにして、仏教を日本まで伝えるという命がけの難事業を成しとげるシーンは、弘法大師の求道心の深さが、画面を通して観る者の心に、切せつと伝わってくる。

またツトム・ヤマシタが、日本映画としては初めて音楽監督を担当した現代的な音色の響きや、マンダラを効果的に使った撮影技法の巧みさは、全キャストの熱演と相まって、私たちが知らず知らず

遠い平安の昔へ誘ってくれる。

この映画の製作本部長・中村義英師（全真言宗青年連盟理事）は次のように語っている。

「この映画の製作は、宗祖に対する報恩謝徳の意味からも、全真言宗青年連盟が総力をあけて取り組みました。最初は、全て独力で創ろうという意見もありましたが、やはり一人でも多くの方に観ていただくためには、一般の映画館にからなければ意味がない——ということ、最も多い配給網を持ち、また時代劇について最高の撮影設備を持つ東映と手を組むことにしたわけです。結果は大成功だったと思います。」

お大師様について映像化が行われるのは、もちろんこれが初めてです。まさに画期的な事業といえます。

製作上、苦勞した点は、宗祖があまりに巨大で、多くの仕事を残されているため、短かい時間内に、それをどう盛りこむかといった点です。非常に多くの業績がカットされています。三時間に収めるため、スタッフは実に大変でした。

この映画は特に若い人に観ていただきたいと思います。弘法大師という、もう一宗を超えた歴史上の巨人を知ることによって、現代人の心が豊かになり、仏教のみ教が拡まるきっかけになれば、うれしいと思います。」

全日本仏教会推薦の映画「空海」についてのお問い合わせは、真言系各寺院もしくは、智山教化研究所（〇三—四三—一〇八一）まで。